

「東京医科歯科大学献体の会」会員ならびにご関係の皆さまへ

臨床解剖学分野では、以下の研究を行っております。皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

研究課題名：膝関節包の層構成と付着に関する形態学的研究

東京医科歯科大学医学部倫理委員会承認番号：M2018-243

研究期間：医学部倫理審査委員会承認後から 2021 年 3 月 31 日まで

研究目的：

膝関節のなかに前十字靭帯という靭帯があります。スポーツによって損傷されやすい靭帯の一つで、一般的に損傷後は再建術が行なわれます。しかしながら、再建術を行なってもなお、膝関節が不安定な状態が持続する場合がありますことが報告されています。この原因は、膝関節を取り巻く袋（関節包）にも損傷の影響が及んでいるためであると考えられており、近年では関節包の再建術も実施されるようになりました。しかしながら、関節包がどのような層で構成されているのか、関節周囲へどのように広がっているのかに関しては、一定の見解が得られていないのが現状です。本研究の目的は、膝関節を取り巻く構造物（主として関節包）の層構成と広がりをも明らかにすることです。

研究の対象：

本研究で用いる解剖体は、すべて生前に「東京医科歯科大学献体の会」に入会された方のご遺体です。その尊いご遺志に深く感謝するとともに、医学、歯学の教育ならびに研究に用いるという献体法（医学及び歯学の教育のために献体に関する法律）ならびに死体解剖保存法の精神を遵守して行って参ります。また、研究の実施に当たっては、日本解剖学会が定めた「解剖体を用いた研究についての考え方と実施に関するガイドライン」に従って行います。

研究の内容：

本学臨床解剖学講座にて保存されている解剖体を用いて、膝関節の周りの筋、筋膜、靭帯を明らかにします。一つ一つの構造を観察したのち、丁寧に剥離し、付着していた場所に印をつけながら、それらの構造物を切除していきます。さらに詳細に検証するために、切片ブロックを作成し、マッソントリクローム染色を行います。組織標本はスキャナーでパソコンに取り込んで、ソフトを用いて3D画像を構築します。この手法によって、膝関節包の層構成と広がりをはっきりとすることが出来ます。解剖学的知見に基づいて、膝関節の不安定性に関与する要因について考えていきたいと思っております。

この研究により一定の成果がえられた場合には、その結果を学会や論文で発表しますが、写真閲覧時に匿名化を行い、解剖体の個人を特定できる情報は使用いたしません。登録解剖体の同定や照会は、登録時に発行される登録番号を用いて行います。登録にあたっては、識別番号を設定し、対応表を作成します。参照した画像等は、匿名化の後、臨床解剖学医局にて10年間厳重に保管し、研究終了後に適切に扱わせていただきます。

本研究は大学の運営費を用いて行われます。また研究を実施するにあたり特定企業との利害関係はありません。本研究の実施にあたっては、医学部臨床研究利益相反委員会に申告を行い、承認されています。またデータを二次的に利用する場合は新たな研究計画を立案し医学部倫理審査委員会で承認された後、改めてHP上でお知らせいたします。

なお、本研究に関してお問い合わせのある場合、下記宛先までご連絡ください。また、研究の途中であっても、解剖体の使用あるいは得られたデータの使用をお断りになる場合には直ちに本研究の対象から除外します。その場合にも故人および関係者の皆様の不利益となることは一切ありませんので、ご遠慮なくお申し出ください。

研究責任者：東京医科歯科大学大学院 臨床解剖学分野 秋田恵一

〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45

電話：03-5803-5390 (対応可能時間帯 平日 9:00～17:00)

苦情・相談窓口：

東京医科歯科大学医学部総務掛

電話：03-5803-5096 (対応可能時間帯 平日 9:00～17:00)